

- 今のままでいいと思います。
- とにかく患者のことを第一に。良いことでも悪いことでも、患者本人が一番関わるのだから。
- 最近はおかしな考えの人が結構いるので、どういう風に自分の意見とかを見られているかわからないので、あまりBBSには近寄らなくなった。せっかく意見の交換ができる場なのにつまらないと思う。BBSへのパスワードとか発行してくれるようなところが増えたらいいと思う。もちろん無料がいい。
- プライバシーが守られるのであれば、インターネットで医療分野等の相談・情報提供等を売り出すべきではないか？
- プライバシーの保護こそ重要。
- 自分にとって有用性のある情報、そうでないものを見極める力が必要になってくると思う。
- 広く情報を公開して欲しい
- いろいろな情報を入手できることはとてもうれしいが、それに振り回されてしまうことがある。相談を受ける側の方が、本当に親身になってくれているのか不安。
- 医療などの相談ができるサイトがあるといいと思う。医療費負担が上がったり、給料も少なくなっているのに、多少なりとも、相談できる窓口があるといい
- セキュリティが不安
- 一番の不安材料は第三者に情報が漏れないかどうか？また漏れたときに対処方法の確立。
- プライバシーの問題に関ることなのでしっかりとしたセキュリティーシステムの導入を考慮願いたい。
- どこまでがプライバシーの尊重されている部分なのかが不透明で危うい橋を渡っているような気がする。総括的に整備されて欲しいがどこまで実現可能かがわからない。そのため現段階では自分の身は自分で守ることが大切かなと思う
- まだ信用できないので、個人情報とはできるだけ控えたい
- もっと予防医学を広く普及させるためにも政府主導のもとこのようなサービスに力を入れて欲しい

- 最終的には個人の判断になると思う。
- 権力を持った医師、営利追求の製薬会社や医療機器会社は欲しくない。「医は仁術」と呼ばれたのは過去の話でも、「医は算術」と言うのは、いいかげんに辞めて欲しい。町医者、高度機器を備えた「総合病院」である必要はなく、「住民の主治医」として、病院への窓口になれば良いのに。
- 個人情報の保護は、必要だと思います。たいした内容でなくとも、それが第三者に渡り、なにに使われるか分からないと考えると、気持悪いです。患者は、当然守られていると考えて相談等するので、きちんとした規制を求めたいです。
- 最終的には個人の責任かなと思います
- ある疾患に対する複数の治療法を比較検討するのは、意外と大変です。もっと簡単に調べられるようになりたいです。
- 正確な情報をいち早くキャッチできるとよい。
- 医療だけにかかわらず、個人情報の漏洩が一番心配している問題です。どう付き合っていく行かなければならないか、個人でしっかり考えなければどのような問題へと発展するか考えもつきません。
- 個人の情報が守られた上で、その情報が他の人に役立つのであれば、そうあってほしいと思う。
- プライバシーの保護があって初めて安心して情報交換したり、相談できると思われる。
- インターネットの性格上、情報の品質はまちまちであるのは仕方が無い。その中で光るものが一つでもあればよい。個人情報保護については言うまでも無く最大限の配慮をすべき。
- とにかくセキュリティーをしっかりと。もれてしまってから謝っても遅い
- やはり個人情報については、プライバシーをしっかり守るようなシステムが不可欠だと思う。
- プライバシーの面では、インターネットも、実際の面談でも情報の取り扱いに不安があるのには変わらない。

クロス集計結果

- 資料 1.2. 性別によるクロス集計結果
- 資料 1.3. 疾患別によるクロス集計結果
- 資料 1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果
- 資料 1.5. 年代別によるクロス集計結果
- 資料 1.6. 利用頻度によるクロス集計結果

資料1.2. 性別によるクロス集計結果

1.2. 性別によるクロス集計結果

回答者のうち、男女の2群に分け、他の質問項目に対するクロス集計を行った。この項の末尾にグラフを掲示した。

1.2.1 回答者のプロフィール

男性は回答者全体の37.1%であった。その平均年齢は41.3歳であった。年代別の構成比は、20歳以下1.0%、20代12.5%、30代34.2%、40代30.7%、50代13.5%、60代7.0%、70歳以上1.2%であった。患者本人か患者の家族かの区別では患者本人64.8%、家族35.2%であった。疾患の種類は、高血圧38.9%、糖尿病26.7%、アトピー性皮膚炎24.9%、喘息16.0%、胃がん・乳がん・大腸がん8.0%、その他13.2%であった。一人の人が、複数の疾患を有する場合もあった。

女性は回答者全体の62.9%であった。その平均年齢は34.7歳であった。年代別の構成比は、20歳以下2.9%、20代27.5%、30代44.9%、40代17.8%、50代5.1%、60代1.0%、70歳以上0.7%であった。患者本人か患者の家族かの区別では患者本人42.8%、家族57.2%であった。疾患の種類は、高血圧25.4%、糖尿病16.6%、アトピー性皮膚炎38.4%、喘息29.3%、胃がん・乳がん・大腸がん11.2%、その他11.6%であった。

1.2.2 インターネットへの接続方法

主なインターネットへの接続方法としては、男性では、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」47.6%、「ADSLまたはxDSL」28.7%、「CATV」20.0%、「光ファイバー」0.7%、「携帯電話またはPHS」0.7%、その他2.2%であった。また、女性では、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」56.2%、「CATV」19.9%、「ADSLまたはxDSL」19.4%、「光ファイバー」1.0%、「携帯電話またはPHS」0.9%、その他2.6%であった。「ADSLまたはxDSL」と「CATV」の順位差が、男女の違いで若干認められた。

1.2.3 よく利用する検索エンジン

男性が、医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンとしてあげたものは「Yahoo!」59.9%、「Google」17.2%、「Goo」6.5%、「MSN」6.5%、「Infoseek」6.0%、「LYCOS」1.7%、「Netscape」0.5%、その他1.7%であった。女性が、最もよく利用する検索エンジンとしてあげたものは「Yahoo!」62.9%、「Google」10.7%、「Goo」9.4%、「MSN」7.9%、「Infoseek」4.3%、「LYCOS」1.2%、「Netscape」0.4%、その他3.1%であった。その順番において男女の間で違いはなかった。

1.2.4 情報の利用頻度

掲示板やオンライン会議室は除き、「インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか」の問いに対して、男性は「ほとんど毎日」7.0%、「1週間に1度以上」20.2%、「1カ月に1~3回」43.9%、「1年に1~数回」28.9%であった。また、女性では「ほとんど毎日」7.2%、「1週間に1度以上」13.2%、「1カ月に1~3回」51.0%、「1年に1~数回」28.5%であった。

男女の比較では、1カ月以内の利用頻度はあまり変わらないが、「1週間に1度以上」の割合でみる

と、男性が女性よりも高かった。

1.2.5 利用情報について

「利用している情報」（複数回答）については、男性では「病気に関する一般的情報」76.3%、「病気の治療法に関する情報」57.1%、「薬に関する情報」52.6%、「医療機関に関する情報」32.2%、「同じ患者の体験情報」22.9%、「QOL（生活の質）に関する情報」9.5%、「医師に関する情報」6.0%、その他3.0%であった。また、女性では「病気に関する一般的情報」72.2%、「病気の治療法に関する情報」60.4%、「薬に関する情報」56.3%、「同じ患者の体験情報」36.5%、「医療機関に関する情報」31.9%、「医師に関する情報」7.5%、「QOL（生活の質）に関する情報」6.3%、その他1.8%であった。

男女の比較では、「同じ患者の体験情報」が女性において高かった。

1.2.6 利用情報の信頼性

「利用されている情報は全体的にみて、信頼できると思いますか」の問いに対しては、男性では「かなり信頼できる」11.7%、「まあまあ信頼できる」80.3%、「あまり信頼できない」7.5%、「ほとんど信頼できない」0.5%であった。また、女性では、「かなり信頼できる」8.2%、「まあまあ信頼できる」84.6%、「あまり信頼できない」6.9%、「ほとんど信頼できない」0.3%であった。

男女の比較では、「かなり信頼できる」とする割合が女性において低かった。

1.2.7 信頼できない理由

利用している情報が、「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」と回答した人81名のうち、32名が男性、48名が女性、不明が1名であった。男性に対し、その理由を尋ねたところ（複数回答）、「情報の中身の確かさがわからない」59.4%、「情報量が少ない」43.8%、「情報の質が低い」31.3%、「情報量が多すぎる」12.5%、その他6.3%であった。また、女性では、「情報の中身の確かさがわからない」64.6%、「情報量が少ない」27.1%、「情報の質が低い」27.1%、「情報量が多すぎる」20.8%、その他10.4%となっていた。

男女の比較では、男性のほうが、「情報量が少ない」とする割合が高かった。反対に、「情報量が多すぎる」とする割合は女性のほうが高かった。

1.2.8 信頼できるウェブサイト

利用している情報が、「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」と回答した人1,000名のうち、363名が男性、627名が女性、不明が10名だった。男性に対し、どのようなウェブサイトが提供する情報が信頼できるかと上位5つをあげてもらったところ、「大学病院、国立病院」54.0%、「公的な研究機関」46.0%、「診療所・クリニック」38.8%、「民間の医療情報提供会社」37.7%、「厚生省などの国の機関」36.6%、「製薬メーカー」34.7%、「地域の中核病院」30.6%、「患者（個人または団体）」28.1%、「医師会」22.3%、「保健所」17.4%、「薬剤師」9.6%、その他1.9%であった。また、女性では、「患者（個人または団体）」42.1%、「公的な研究機関」41.0%、「大学病院、国立病院」40.8%、「民間の医療情報提供会社」35.1%、「診療所・クリニック」33.7%、「厚生省などの国の機関」29.5%、「製薬メーカー」28.1%、「医師会」25.0%、「地域の中核病院」20.6%、「保健所」19.3%、「薬剤師」14.4%、その他2.2%であった。

男女の比較では、女性においては、「患者（個人または団体）」を一番目にあげたのに対し、男性では8番目と顕著な差があった。

1.2.9 情報内容の信頼性の基準

情報を利用する時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意しているかに関し、「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものは何かと尋ねたところ（複数回答）、男性では「実在する医療機関が提供する情報である」59.4%、「公的な機関が提供する情報である」50.4%、「医師または医師団体が提供する情報である」46.9%、「患者（団体）が提供する情報である」36.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」30.4%、「薬剤師が提供する情報である」18.7%、その他2.7%であった。また、女性では「実在する医療機関が提供する情報である」52.5%、「患者（団体）が提供する情報である」49.7%、「公的な機関が提供する情報である」46.8%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.9%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」27.4%、「薬剤師が提供する情報である」18.1%、その他2.1%であった。

男女の比較では、情報内容の信頼性の基準として、男女とも「実在する医療機関が提供する情報である」を一番にあげたが、女性においては、「患者（団体）が提供する情報である」ことが2番目にあげられていた。

1.2.10 情報の信頼性を損ねる要因

情報を利用する時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」要因は何かと尋ねたところ（複数回答）、男性では「誰が情報提供者かよくわからない」70.6%、「情報が一方的で偏っている」56.9%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」55.4%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.4%、「情報に科学性、客観性がない」40.1%、「営利企業が提供している」36.4%、「情報の作成日が古い」34.4%、「専門家の監修を経ていない」25.9%、「情報の作成日が不明である」26.4%、その他1.7%であった。また、女性では「誰が情報提供者かよくわからない」65.3%、「情報が一方的で偏っている」62.6%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」60.6%、「情報の作成日が古い」50.1%、「営利企業が提供している」45.7%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.1%、「情報に科学性、客観性がない」35.4%、「専門家の監修を経ていない」26.5%、「情報の作成日が不明である」26.0%、その他1.7%であった。

男女の比較では、女性において「情報の作成日が古い」または「営利企業が提供している」ことを要因としてあげる割合が高かった。

1.2.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度

インターネット上の掲示板やオンライン会議室の利用頻度については、男性では「ほとんど毎日」10.0%、「1週間に1度以上」16.2%、「1カ月に1~3回」26.9%、「1年に1~数回」46.9%であった。また、女性では「ほとんど毎日」11.3%、「1週間に1度以上」14.1%、「1カ月に1~3回」27.8%、「1年に1~数回」46.8%であった。

男女間では、あまり差が認められなかった。

1.2.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット

掲示板やオンライン会議室を利用するメリット（利点）は何かと尋ねたところ（複数回答）、男性では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」57.6%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」53.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」29.9%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」27.4%、「コミュニケーションを深めることができる」23.7%、「自分の意見を書き込むことができる」19.0%、「自分の持っている情報が提供できる」15.0%、その他2.0%であった。女性では、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」64.1%、「病気や治療法に関する情報が交

換できる」49.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.7%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」22.1%、「自分の意見を書き込むことができる」21.0%、「コミュニケーションを深めることができる」17.6%、「自分の持っている情報が提供できる」11.3%、その他2.0%であった。

男女間の比較では、女性において、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」とする割合が高かった。

1.2.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点

掲示板やオンライン会議室を利用する時の問題点としてあげたものは（複数回答）、男性では「内容に思い込みや偏見がある」53.1%、「営利、広告目的の投稿がある」49.1%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」41.9%、「感情的なやりとりがある」36.7%、「匿名の投稿がある」27.7%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」27.2%、「誹謗、中傷の内容がある」26.2%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.7%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」25.7%、その他2.7%であった。また、女性では「内容に思い込みや偏見がある」51.2%、「営利、広告目的の投稿がある」44.1%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」39.9%、「感情的なやりとりがある」35.9%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」27.5%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」24.9%、「誹謗、中傷の内容がある」24.9%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」23.4%、「匿名の投稿がある」16.5%、その他2.5%であった。

男女の比較では、男女とも「内容に思い込みや偏見がある」を一番にあげていたが、「匿名の投稿がある」と「営利、広告目的の投稿がある」においては、男性のほうが高かった。

1.2.14 医療相談の体験

回答者自身が今までにインターネットで医療相談をしたことがあるかどうか尋ねたところ（同じ内容で複数回のやりとりは1回とみなした）、男性では「1回利用したことがある」12.7%、「2回以上利用したことがある」12.0%で、両方の合計で、24.7%であった。また、女性では「1回利用したことがある」19.0%、「2回以上利用したことがある」12.1%で、両方の合計で、31.1%であった。

男女の比較では、女性のほうが高かった。

1.2.15 医療相談の相手

医療相談を「利用したことがある」と回答した人310名に対し、相談の相手がどのような立場の人だったかを尋ねたところ（複数回答）、回答があった309名のうち、男性では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」58.6%、「民間の医療情報提供会社」22.2%、「患者（団体）」17.2%、「製薬メーカー」14.1%、「かかりつけの医師」11.1%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」11.1%、「薬剤師または薬局」10.1%、「利用している医療機関の他の医師」10.1%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」5.1%、「保健所職員」3.0%、その他3.0%であった。また、女性では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」67.6%、「患者（団体）」17.1%、「民間の医療情報提供会社」14.3%、「薬剤師または薬局」9.5%、「製薬メーカー」7.6%、「かかりつけの医師」7.1%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.2%、「利用している医療機関の他の医師」5.7%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」4.8%、「保健所職員」1.0%、その他1.9%であった。

男女の比較では、男女いずれとも、「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」が一番にあげたが、その割合は女性のほうが高かった。いっぽう、「民間の医療情報提供会社」や「製薬

メーカー」をあげる割合は男性が高かった。

1.2.16 医療相談時の不安

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみて「不安を感じる」のは、どのような場合であるかを尋ねたところ（複数回答）、男性では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」57.6%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」57.6%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」56.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」38.7%、その他1.5%であった。また、女性では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」64.7%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」58.8%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」57.6%、「相手が医師など医療従事者でない場合」40.3%、その他1.9%であった。

医療相談時の個人情報の保護に関して、男女いずれも高い不安を抱いていることが示されたが、その割合は女性のほうが高かった。

1.2.17 信頼できる医療相談の相手

オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手として誰を選ぶかについて、上位3つまであげてもらったところ、男性では「医師」92.5%、「薬剤師」36.7%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」29.7%、「民間の医療情報提供会社」28.9%、「患者（団体）」28.7%、「保健所職員」17.0%、「製薬メーカー」12.0%、その他1.0%であった。また、女性では「医師」93.4%、「薬剤師」38.5%、「患者（団体）」36.3%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」33.7%、「民間の医療情報提供会社」25.6%、「保健所職員」16.8%、「製薬メーカー」10.6%、その他1.5%であった。

男女いずれも、圧倒的に「医師」を一番にあげ、続いて2番目に「薬剤師」をあげたが、女性においては「患者（団体）」が3位となった。

1.2.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心

インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療（健康）情報が、さまざまに流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねたところ、男性では、「非常に関心がある」38.4%、「まあまあ関心がある」50.9%、「あまり関心はない」10.7%、「まったく関心はない」0%であった。また、女性では「非常に関心がある」33.1%、「まあまあ関心がある」56.6%、「あまり関心はない」9.9%、「まったく関心はない」0.4%であった。

「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、男性で89.3%、女性で89.7%といずれも高い数字を示していたが、「非常に関心がある」は男性が高かった。

1.2.19 関心の内容について

前問で、「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」と回答した968名を対象に、どのようなことに関心があるかを尋ねた（複数回答）。回答があった963名のうち、男性では「どのような目的に利用されているかについて」76.6%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」60.2%、「何の情報が収集されているかについて」58.2%、「第三者に利用されていないかについて」57.3%、「どのように内部で管理されているかについて」48.6%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」41.5%、「保管された情報が間違っていないかについて」

29.4%、その他1.1%であった。また、女性では「どのような目的に利用されているかについて」76.8%、「第三者に利用されていないかについて」69.5%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」60.1%、「どのように内部で管理されているかについて」56.5%、「何の情報が収集されているかについて」54.7%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」46.0%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」29.9%、その他0.2%であった。

男女いずれとも、「どのような目的に利用されているかについて」を一番にあげたが、続く「第三者に利用されていないかについて」は女性のほうが高い関心を持っていた。

1.2.20 プライバシーポリシーの必要性について

インターネットを利用して医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、個人情報の取得方法や管理方法に関して、個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で利用者に告知する、いわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねたところ、男性では「プライバシーポリシーは不可欠である」80.5%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」15.5%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」2.0%、「よくわからない」2.0%であった。また、女性では「プライバシーポリシーは不可欠である」81.0%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」16.2%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.7%、「よくわからない」2.1%であった。

「プライバシーポリシーは不可欠である」とする割合は男女とも8割を超え、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合も、男性で96.0%、女性で97.2%といずれも非常に高い数字を示していた。

1.2.21 プライバシーポリシーの運用法について

法的な拘束性のないプライバシーポリシーの運用に際して、第三者機関からのチェックや法的な規制の必要性を尋ねたところ、男性では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」41.4%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」25.9%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」24.9%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」7.7%であった。また、女性ではプライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.4%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」27.8%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」26.3%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.4%であった。

男女とも大きな差がなく、プライバシーポリシーの運用について、強い規制もしくは第三者の監査・評価を伴う自主的運用を望む割合が高かった。

1.2.22 倫理規範やガイドラインについて

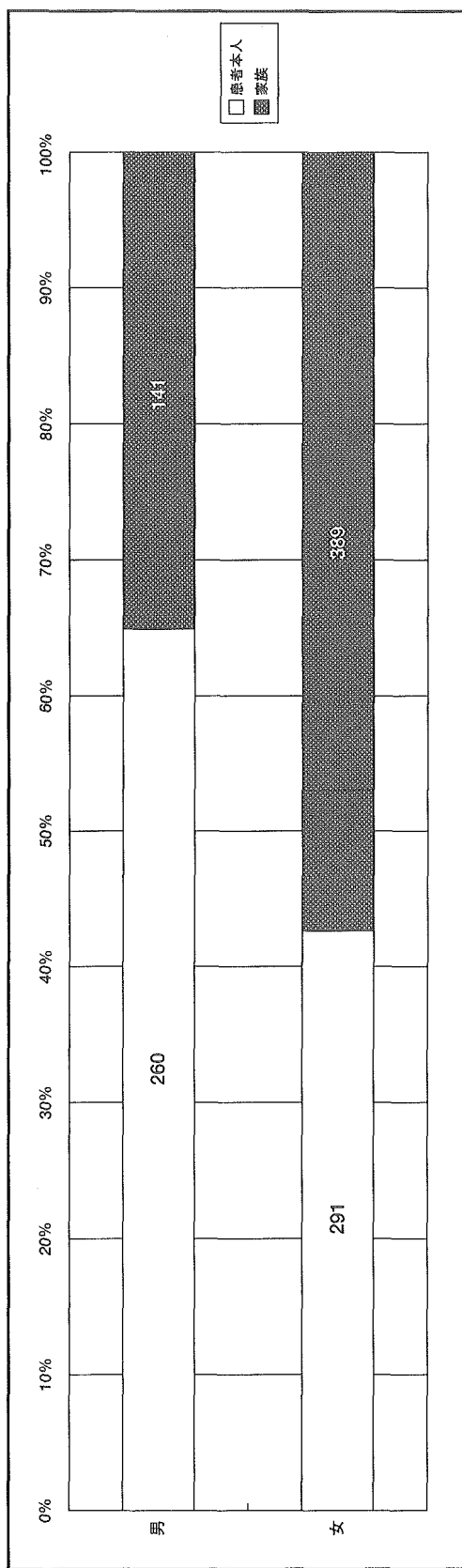
インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、情報やサービスの提供者が自主的に定めていく倫理規範やガイドラインについてどう思うかと尋ねたところ、男性では「ぜひ必要だと思う」64.3%、「やや必要だと思う」32.2%、「あまり必要だと思わない」3.0%、「必要ない」0.5%であった。また、女性では「ぜひ必要だと思う」61.9%、「やや必要だと思う」35.7%、「あまり必要だと思わない」2.4%、「必要ない」0%であった。

「ぜひ必要だと思う」割合は、男性がやや高かったが、「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、男性で96.5%、女性で97.6%といずれも高い数字を示していた。

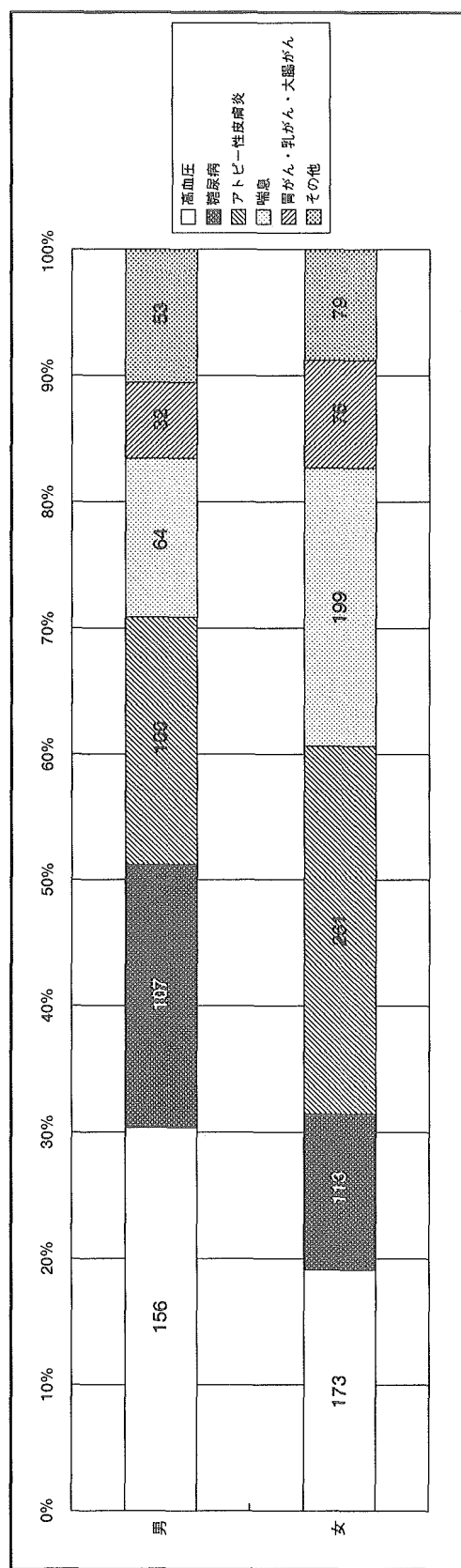
なお、この質問で「あまり必要だと思わない」「必要ない」と回答した人30名にそう思う理由を尋

ねたところ（複数回答）、回答のあった28名は男女半々で、男性では「法的な規制があれば充分である」35.7%、「自主基準の運用のチェックが難しい」28.6%、「すべて事業者の自主性に任せればよい」50.0%、「自主基準では実効性がない」7.1%、その他7.1%であった。また、女性では男性では「自主基準では実効性がない」50.0%、「自主基準の運用のチェックが難しい」42.9%、「法的な規制があれば充分である」14.3%、「すべて事業者の自主性に任せればよい」14.3%、その他0%であった。

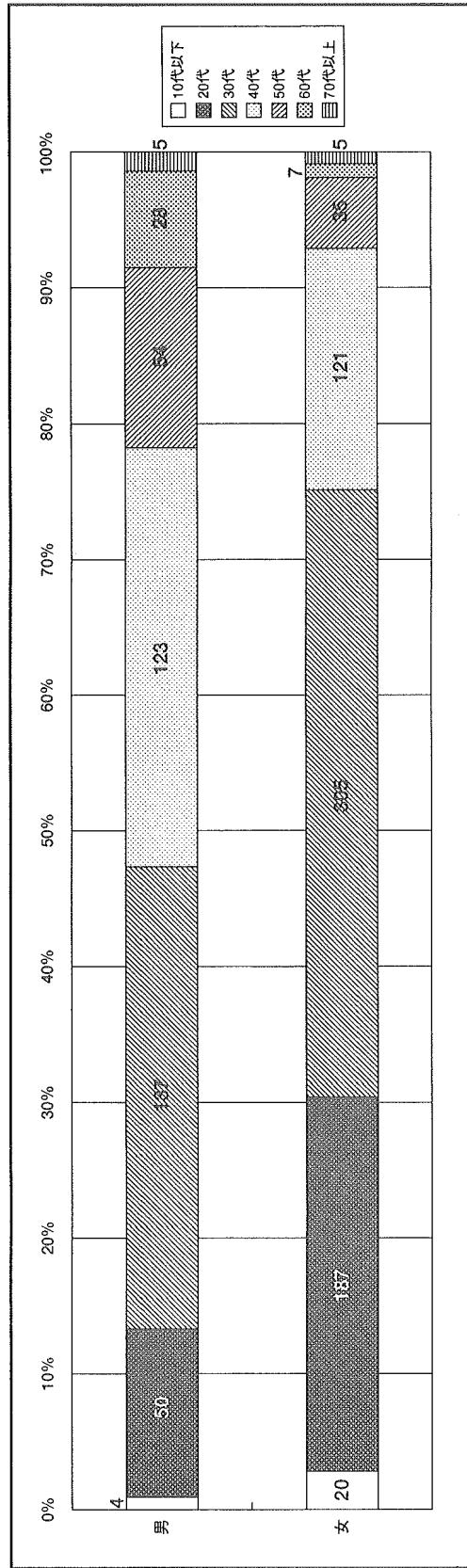
■患者・家族 × 性別



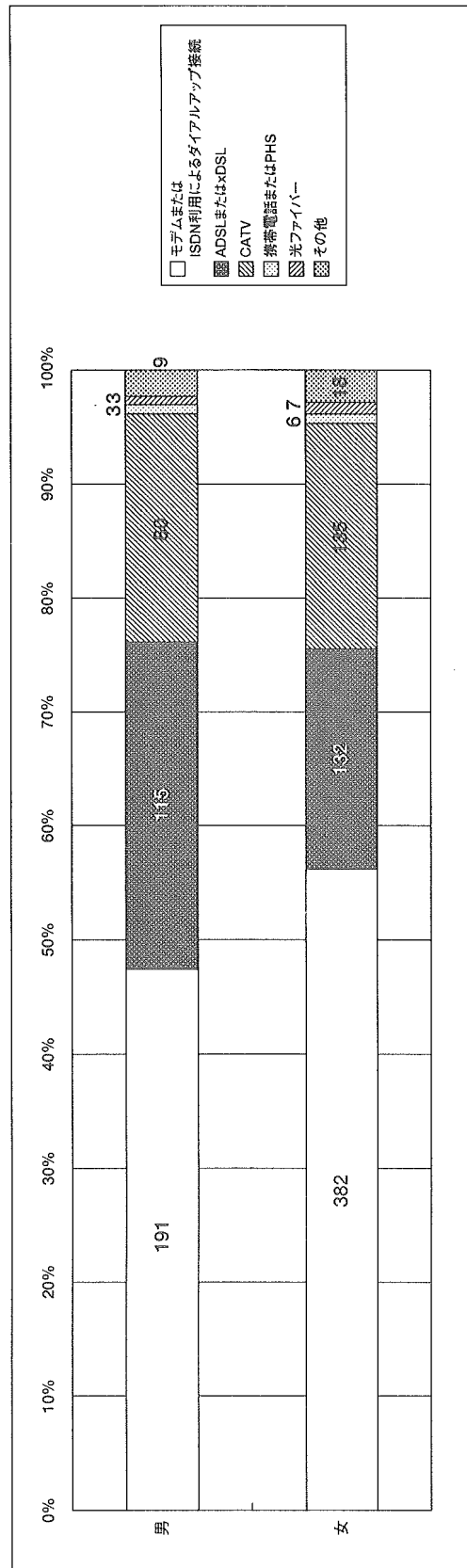
■病気の種類 × 性別



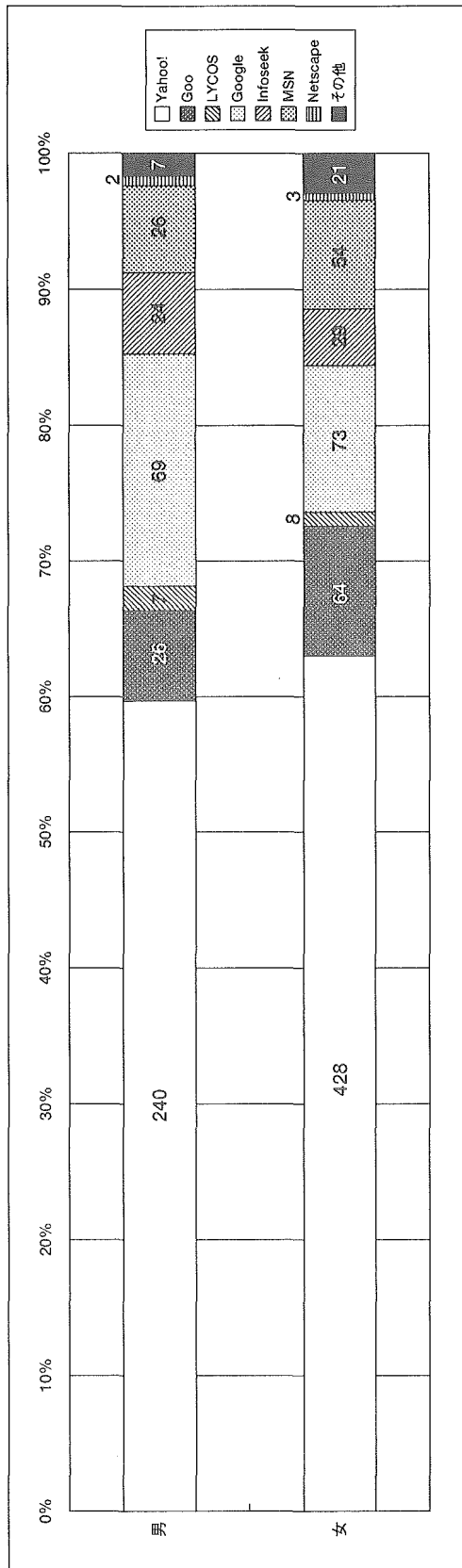
■年代 × 性別



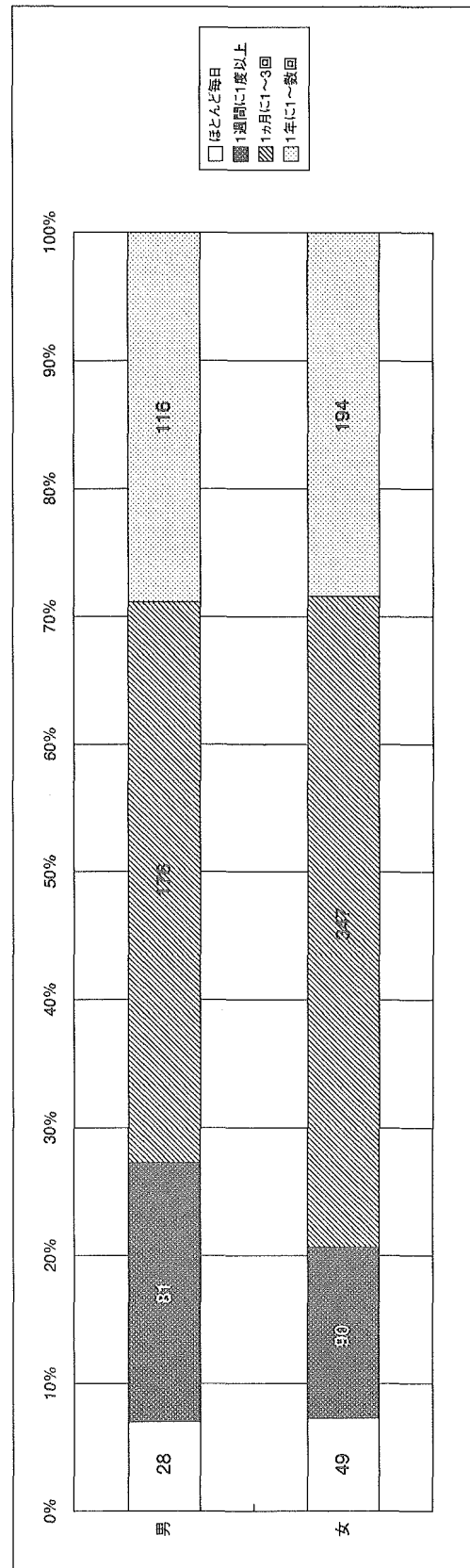
■問1 インターネットへの接続方法 × 性別



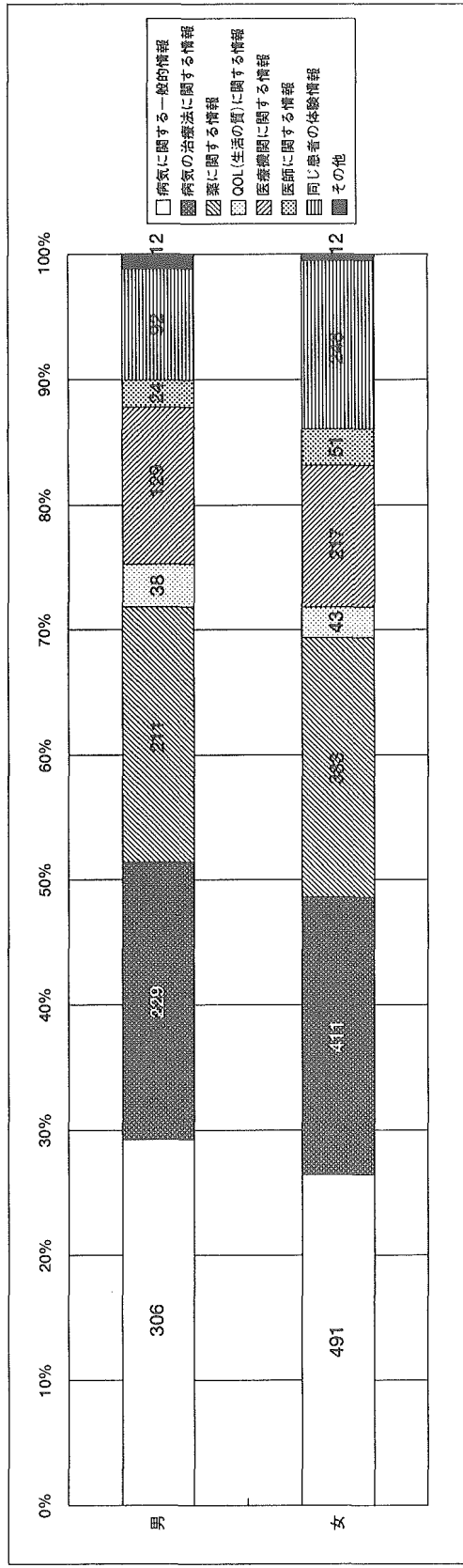
問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×性別



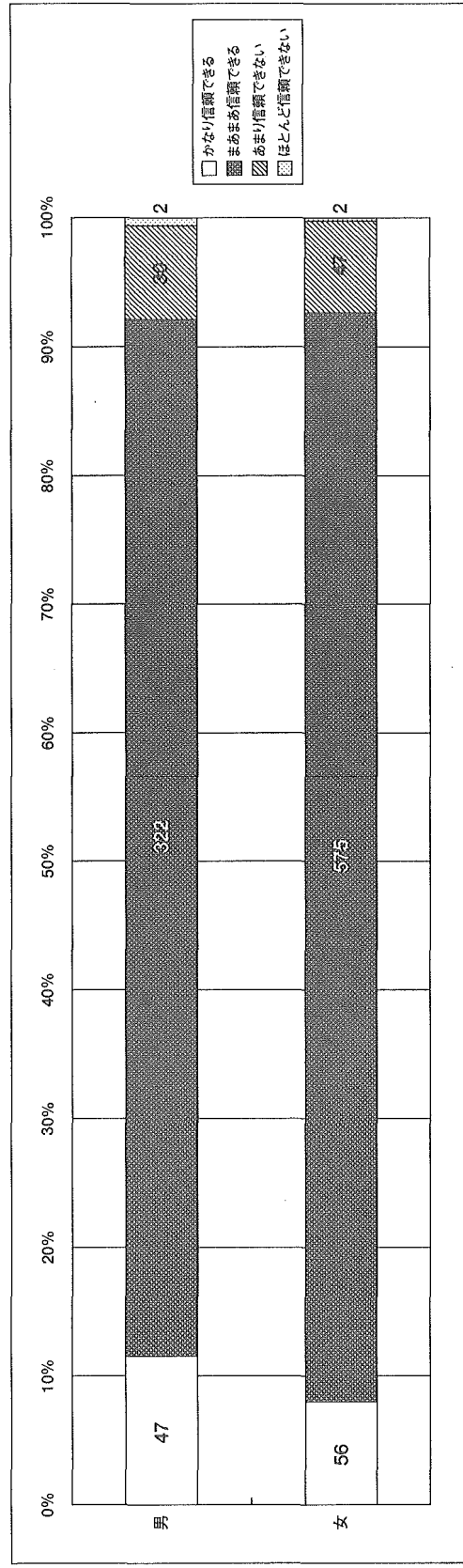
問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？
(掲示板やオンライン会議室は除きます) × 性別



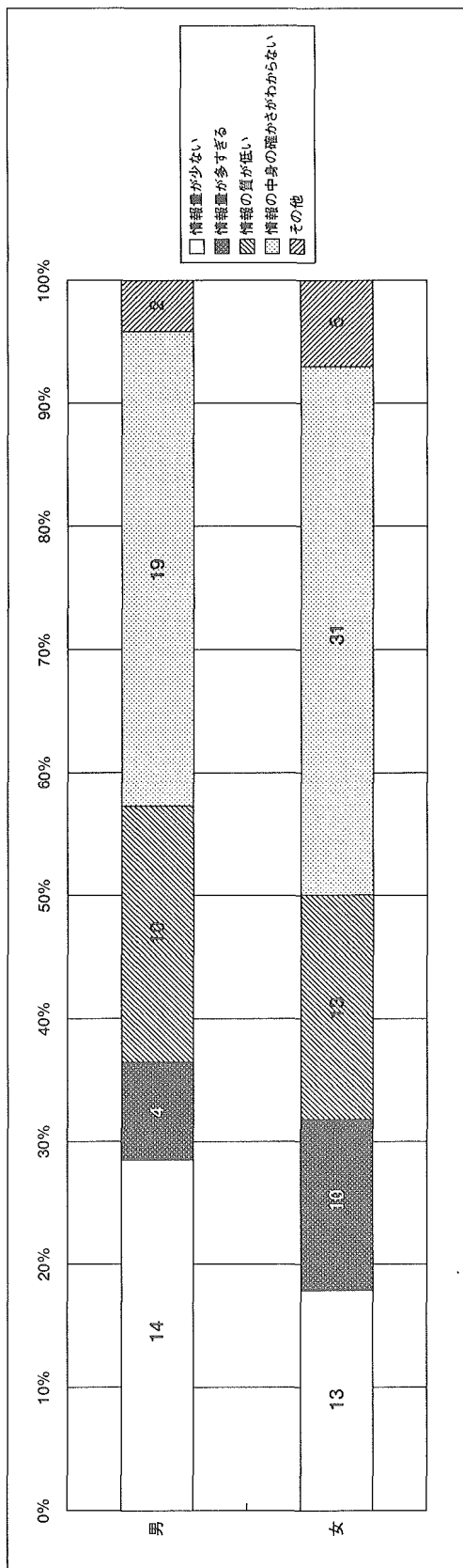
問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも) × 性別



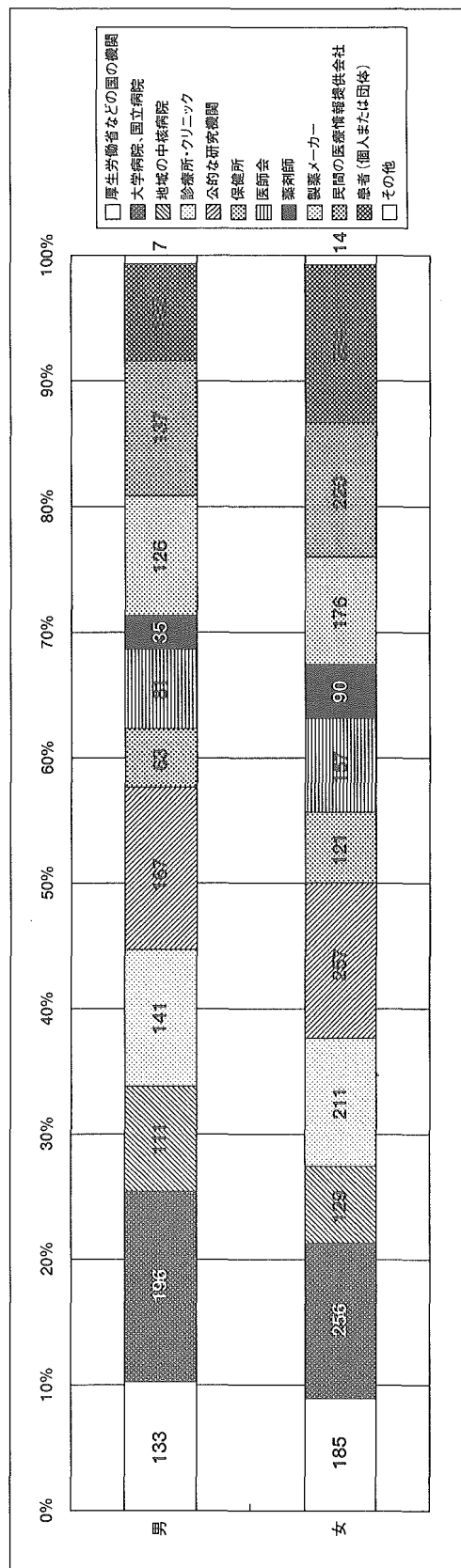
問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？ × 性別



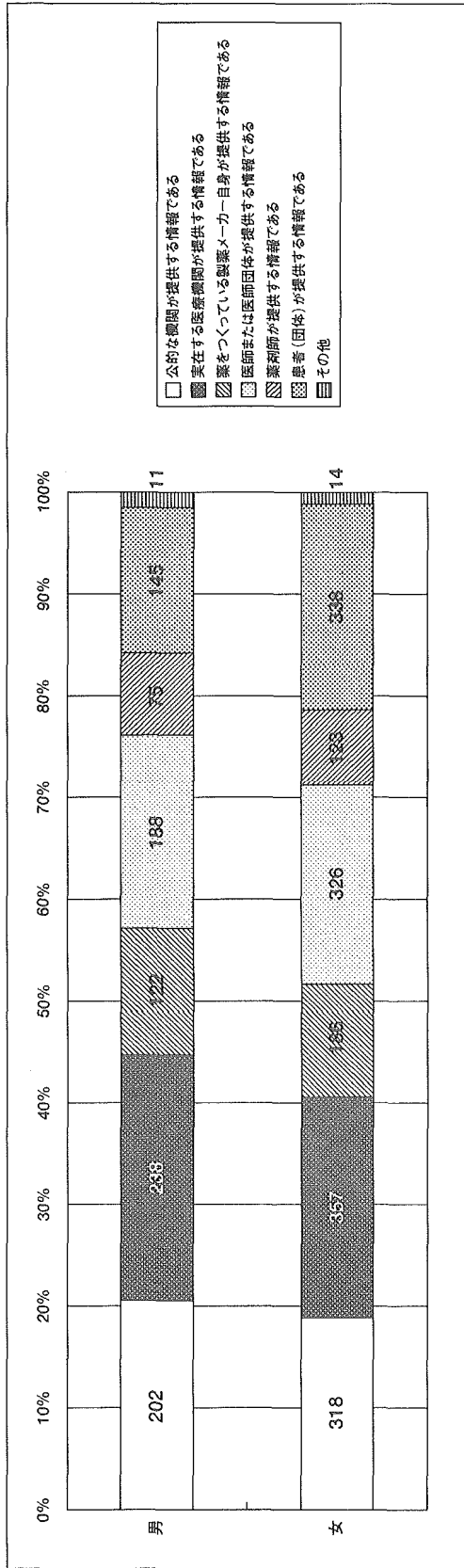
◆「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」とされた理由は？×性別



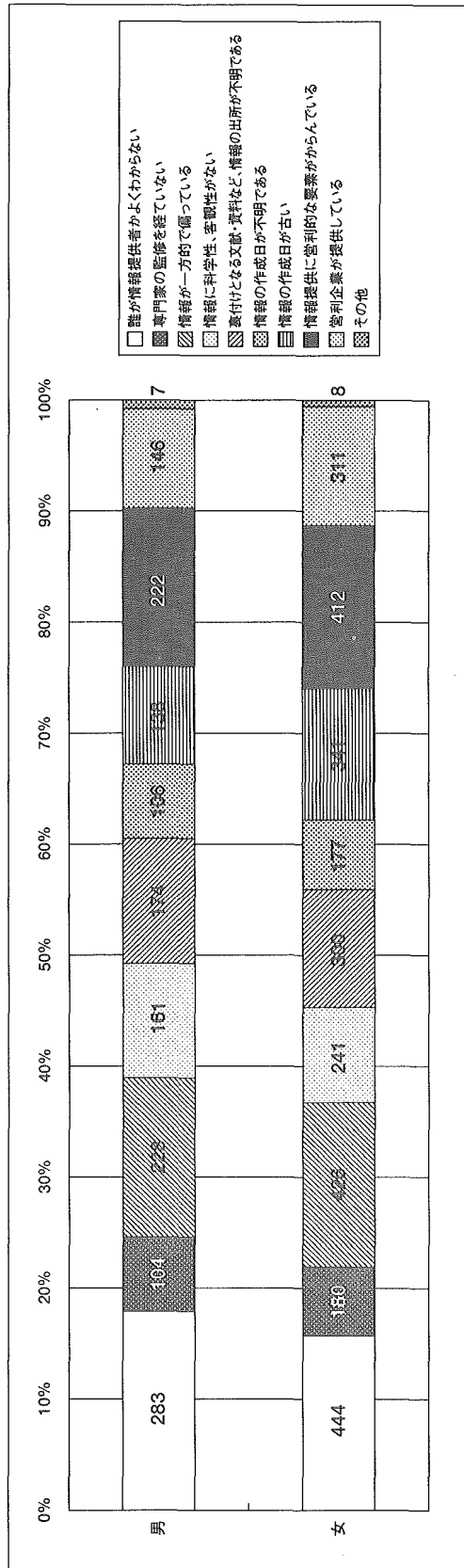
◆「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」とされた方へ主にその情報は、どのようなウェブサイト(運営の主体者)で提供されている情報ですか？×性別



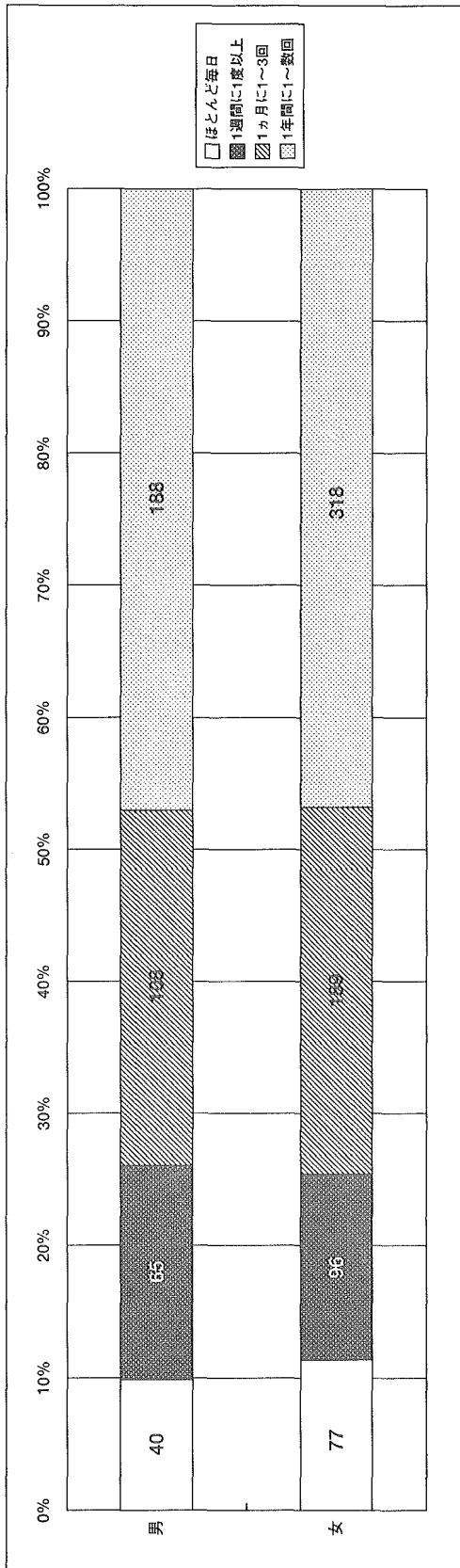
問6 情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？
「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。×性別



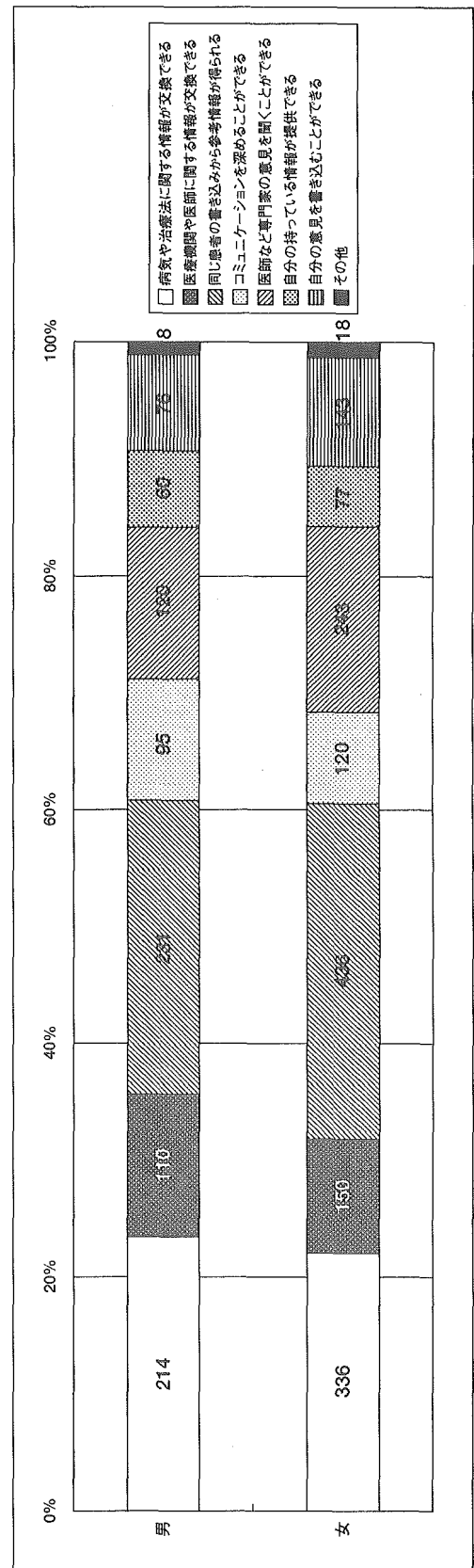
問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？×性別



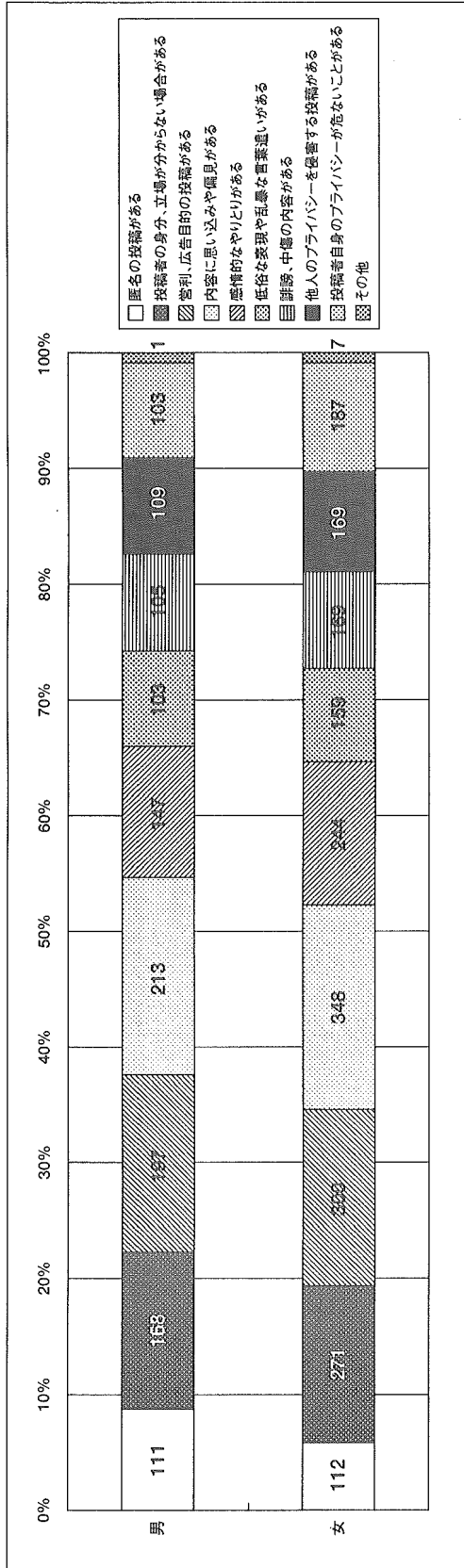
問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？ × 性別



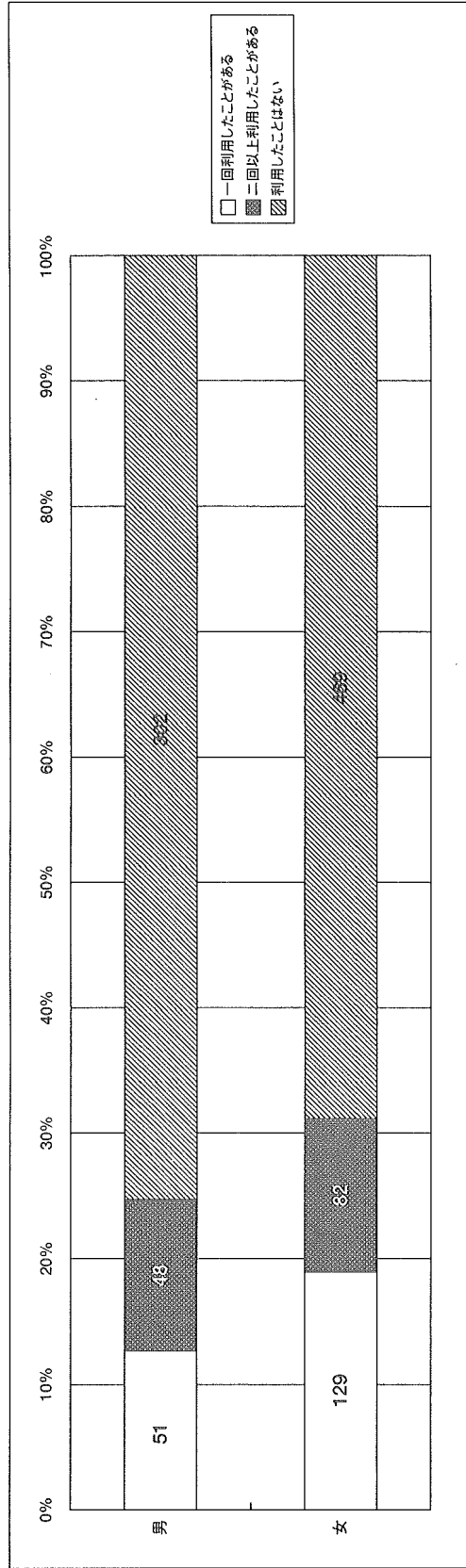
問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？ × 性別



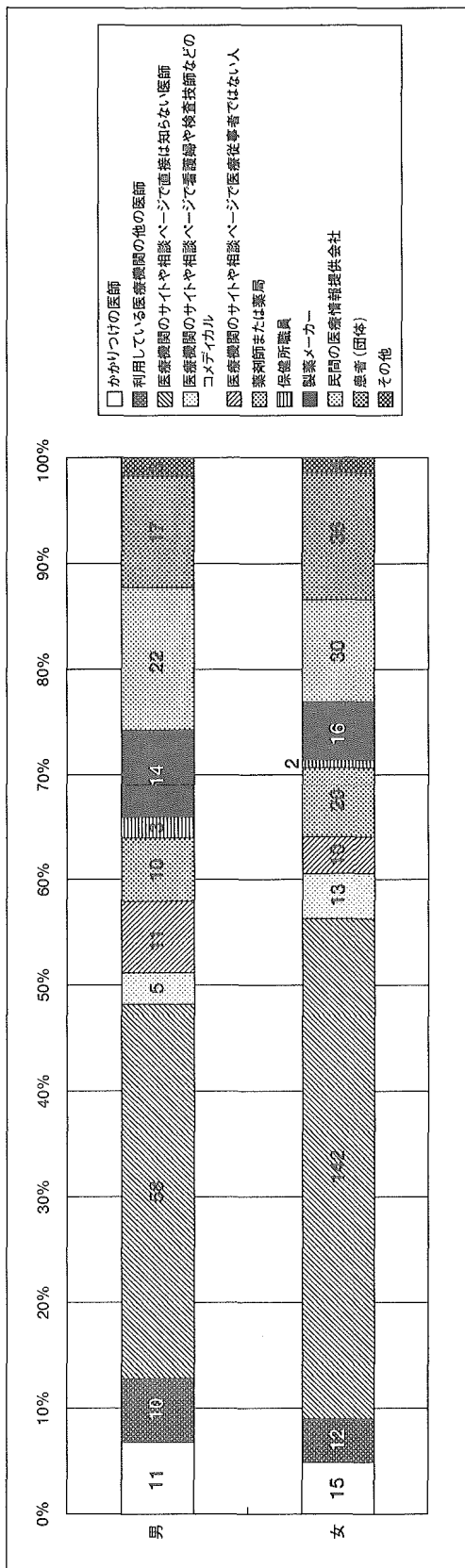
問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありませんか？ × 性別



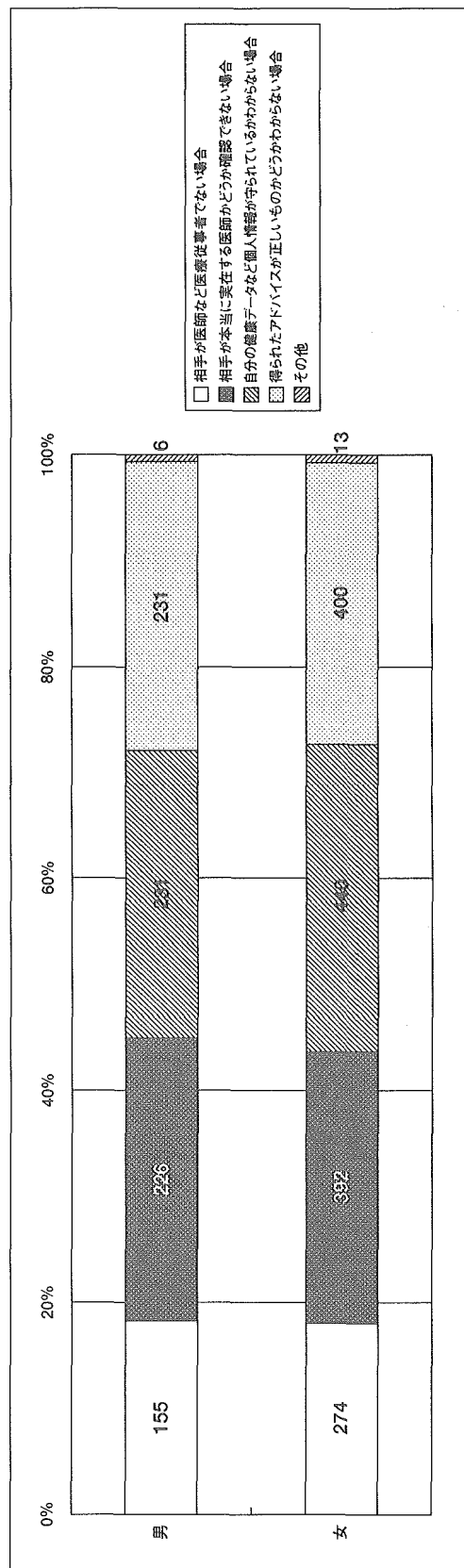
問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありませんか？ × 性別



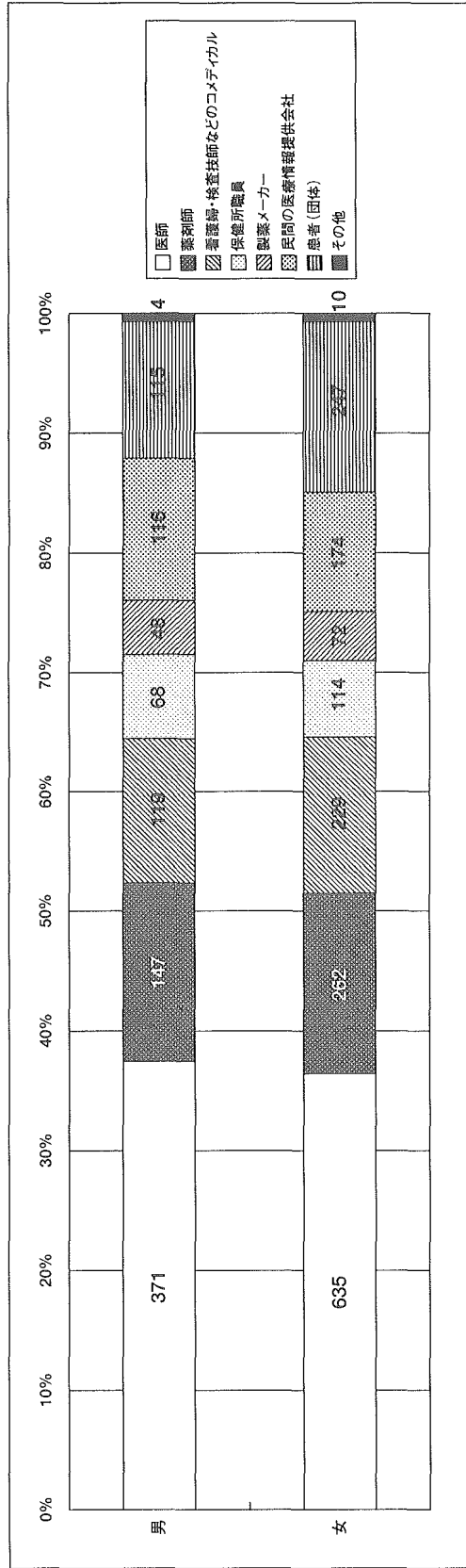
◆ 上記で「利用したことがある」方へ。その時の相談の相手はどのような立場の方でしたか？（いくつでも） × 性別



■ 問12 今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用されるにおいて、利用者側からみて「不安に感じる」場合があるとすればそれはどのような時ですか？（いくつでも） × 性別



問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、信頼できる相手としては誰を選びますか？ × 性別



問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？ × 性別

